

三島大神奉納絵馬「源為朝図」

須藤 格¹・松隈 雄大²

はじめに

茅ヶ崎市萩園にある三島大神の拝殿内には、江戸末期に奉納された、扁額形式の大型絵馬が飾られている。図柄は平安末期の武将で弓の名手として知られる源為朝で、作者は東川斎桂山と号した絵師である。

本資料は、昭和 37 年（1962）発行の『茅ヶ崎市文化財資料集 第 1 集』（以下、『資料集 1』）と、同 41 年（1966）発行の『茅ヶ崎市文化財資料集 第 4 集』（以下、『資料集 4』）で紹介され、その存在が知られている。しかし、どちらも墨書全文の翻刻が付いておらず、本資料に記された文字情報の正確な内容は未報告であった。

また、『資料集 1』と『資料集 4』では、桂山は経歴不詳の人物とされていたが、他市において調査研究が進み、現在では経歴の一部や、神奈川県内に作品が複数点存在することが判明している。

本稿では、本資料の墨書全文などの調査結果を報告するとともに、今後の調査研究のために、現時点で判明している桂山の経歴と、県内における作品の所在状況をまとめて示す。

1 萩園の三島大神

三島大神は萩園の鎮守で、祭神は大山祇命である。天保 12 年（1841）成立の『新編相模国風土記稿』（以下、『風土記稿』）には「三島社 村の鎮守なり、例祭三月九月廿九日、満福寺持」と記されている³。現在の社殿は大正 14 年（1925）に再建されたものである⁴。

創建年代は詳らかでないが、かつて境内の鐘楼には元禄 11 年（1698）再鑄の大釣鐘が掛けられていた⁵。また、別当寺であった満福寺は現在も萩園にあり、『風土記稿』には「満福寺 太鼓山と号す、古義真言宗 大住郡須賀村長楽寺末 開山鎮海、中興開山慶印 天和元年十一月卒」と記され

ている⁶。

例祭日は、かつては 3 月または 4 月の 3・4 日であったが、現在は 7 月の海の日に開催される浜降祭に合わせている⁷。

2 『茅ヶ崎市文化財資料集』の記述

『資料集 1』と『資料集 4』の本資料に関する記述を検討する。

（1）『茅ヶ崎市文化財資料集 第 1 集』

表題は「三島神社の絵馬」で、本資料の全体写真（図 1）が付いている。



【図 1 『資料集 1』掲載写真】

『資料集 1』では、本資料の奉納年月は天保 7 年（1836）12 月、奉納者は「名主菊地小平、百姓常吉、同たつ」の 3 名、絵師は「信有」「東川斎桂山」と号した人物、寸法は 107×165cm、材質は杉、図柄は伊豆大島へ流された源為朝であると述べている⁸。

半井本『保元物語』「為朝鬼島ニ渡ル事并ビニ最後ノ事」によると、保元の乱で敗れた為朝は伊豆大島へ流されたが、流刑先でも大暴れし、伊豆諸島を事実上支配するに至った。ある日、為朝は八丈島から鬼の子孫が住む鬼島へ渡り、そこを支配

下に置いたという⁹。本資料の図柄は、この鬼島渡海譚に取材したものと思われる。

図1をよく見ると、画面左下隅に墨書が3行確認できる。「菊□小兵衛／野崎常□／同□□」と読み取れ、奉納者名のようなが、解説にある「名主菊地小平」「百姓常吉」とは表記が異なり、各人の身分を示す墨書は見当たらない。この写真の寸法は6.0×9.1cmと小さく、翻刻が付いていないため、実際の墨書の内容は確認できない。

また、画面左上隅には矧木による補修が確認できる。この補修の影響については第3章(3)で改めて触れる。

(2) 『茅ヶ崎市文化財資料集 第4集』

表題は『資料集1』と同じで、こちらも写真(図2)が付いている。



【図2 『資料集4』掲載写真】

奉納年月・寸法・材質は『資料集1』と同じで、こちらも墨書の翻刻は付いていない。絵師名については、「信有」の落款があると述べている。

奉納者に関する記述を『資料集1』と比較すると、「菊地小平」が「菊地小兵衛」に、「百姓常吉」が「野崎常吉」に改められており、野崎常吉は後に「勘右衛門」と名乗ったこと、たつは「江戸の儒者林大学頭へ奉公に上がっていた」という説明が新たに加わっている。

また、三島大神の別当寺であった満福寺が所蔵する観音図にも「東川斎桂山」の署名と「信有」の落款があると述べており、本資料の他にも桂山の作品が存在することが示されている¹⁰。

以上のような『資料集1』と『資料集4』の記述の違いから、少なくとも奉納者に関する情報は、本資料の墨書をそのまま引用したものではなく、地域の伝承などにより補足したものと推測できる。同様のことが奉納年月や絵師名についても想定され、墨書全文の再調査が必要であると考えた。

3 再調査の記録

再調査は氏子の方々の立ち会いのもと、三島大神拝殿で3回にわたって実施した。

(1) 第1回調査

平成29年(2017)3月15日(水)に、本資料の現状確認を行った。肉眼による観察の結果、画面左下隅に奉納者名、右下隅に絵師の署名と落款の痕跡が認められた。このときは奉納年月を示す墨書は確認できなかった。墨書も落款も褪色が進んでおり、肉眼による解読は困難と判断した。

また、氏子の方から、桂山の作品が平塚市でも発見されており、同市の重要文化財に指定されているとご教示いただいた。

(2) 第2回調査

平成30年(2018)3月9日(金)に、茅ヶ崎市文化財保護審議委員の相澤雅彦氏(日本美術史)に本資料の確認をしていただいた。中央に描かれた鬼の顔や目の描写に桂山作品の特徴が表れており、平塚市で発見された作品に天保年間(1831～1845)の年紀があることから、当時、桂山が平塚・茅ヶ崎周辺で活動していたと考えられるとご教示いただいた。

(3) 第3回調査

平成30年10月24日(水)に、本資料の写真撮影と実測、赤外線カメラを用いた墨書の解説を行った。このときに撮影した写真は図3、墨書の翻刻は図4に示した。

実測の結果、額部分を含む本資料の寸法は、縦119.4×横178.4cmであった。

赤外線撮影により、画面左上隅に奉納年月が記されていることが初めて確認できた。月の数字は第2章(1)で指摘した補修により当初材ごと失われていたが、「天保七年」と「申」の上半分、「月」が残存しており、本資料が天保7年に奉納されたことは確定できた。

奉納者名は「□池小□衛／野崎常吉／同 多都」と記されていると確認できたが、そのほかに奉納者に関する墨書は見受けられなかった。

絵師の署名は墨が完全に飛んでしたが、周囲の材との色の違いから「東□□□山□」と判読でき、元は「東川斎桂山」の号が記されていたと推測できた。残念ながら、落款の「信有」の文字は判読できなかった。

ちなみに、裏面には「三島神社」と記された紙片が画鋏で留められていた。

4 東川斎桂山

最後に、現時点で判明している桂山の経歴と、神奈川県内における作品の所在状況について述べる。「表 神奈川県内の桂山作品」に、これまでに県内で確認されている作品をまとめた。

桂山は、海老名市と相模原市では「金指桂山」の号で知られている¹¹。旧有馬村(現海老名市の南部地域)の郷土史をまとめた『有馬村郷土誌』(以下『郷土誌』)によれば¹²、桂山は杉久保長安寺(現海老名市杉久保)の出身で、別名藤原美信、俗称元治郎といい、江戸で狩野派の絵を学び、町絵師になったという。晩年は相模国各地を回り、弘化3年(1846)5月23日に没し、田名(現相

模原市中央区水郷田名)の宗祐寺に、「擲筆院桂山一眺居士」の戒名で葬られたという¹³。同じ没年月日と戒名が、同寺と、金指家の菩提寺である金剛寺の過去帳にも記録されている¹⁴。

『郷土誌』では、桂山の作品として2点(表中9と13)が挙げられているが、後に海老名市で3点の作品(表中10～12)が新たに発見されている¹⁵。このうち12番の作品に「東川斎桂山信有」の署名があることから、金指桂山が東川斎桂山とも号していたことが明らかとなった。

平塚市では、平成4年(1992)から9年にかけて、社寺所蔵の中世・近世絵画の調査が実施され、桂山の作品が7点(表中1～7)発見されている¹⁶。さらに、同市の旧家から発見された軸物(表中8)も桂山の作であると近年確認され¹⁷、同市の桂山作品は8点となった。署名・落款・年紀から、天保年間に同市域で「東川斎桂山」「藤原美信」の号で活動していたことが判明している。

以上をまとめると、桂山は現海老名市出身の絵師で、「金指桂山」「東川斎桂山」「藤原美信」「藤原信有」などと号して相模国各地で活動した。桂山の作品は、平塚市に8点、海老名市に4点、相模原市に1点あり、本稿で取り上げた当市の絵馬を加えると、神奈川県内で14点が確認されている。これらのうち、平塚市で5点、海老名市と相模原市で各1点ずつが文化財指定を受けている。

おわりに

本稿で取り上げた三島大神の絵馬は、江戸末期の当市域の文化状況や、民間信仰の様相を現代に伝える資料として貴重である。また、当市を含む県内の社寺や旧家から桂山の作品がさらに発見される可能性は十分考えられる。

謝辞

最後となりましたが、三島大神氏子の皆様には、調査に際して大変お世話になりました。この場を

お借りして、お礼を申し上げます。

- 1 茅ヶ崎市文化資料館 学芸員
- 2 茅ヶ崎市文化資料館 学芸員
- 3 2000『茅ヶ崎地誌集成』13-14 頁
- 4 萩園郷土史勉強会 1993 138 頁
- 5 この鐘は太平洋戦争末期に供出され、現存しない(前掲注4 131 頁)。
- 6 前掲注3 14 頁
- 7 前掲注4 102 頁
- 8 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課編 1962 10 頁
- 9 佐竹昭広ほか校注 1992 136-139 頁
- 10 この観音図の実物は未確認である(茅ヶ崎市教育委員会社会教育課編 1966 14-15 頁)。
- 11 海老名市編 2001 402-404 頁、相模原市教育委員会教育局生涯学習部博物館編 2015 188-189 頁
- 12 『郷土誌』の編纂年は不明だが、大正 11 年(1922)の尋常高等有馬小学校の校舎平面図が添付されている。
- 13 海老名市教育センター編 1995 67 頁
- 14 海老名市編 2001 403 頁
- 15 神崎 1992 61-62 頁
- 16 平塚市中世近世絵画調査団 1995、同 1998
- 17 平塚市 (2019.2.28 閲覧)

参考文献

- ・ 海老名市編 2001『海老名市史 7 通史編 近世』海老名市
- ・ 大島誠 1978「杉久保編」『海老名市文化財資料集 第 6 集』海老名市教育委員会
- ・ 神崎直美 1992「江戸時代の海老名(2)」『えびなの歴史 海老名市史研究』第 4 号
- ・ 相模原市教育委員会教育局生涯学習部博物館編 2015『相模原市史 文化遺産編』相模原市
- ・ 相模原市文化財現況調査会編 1984『相模原市文化財現況調査報告書』相模原市文化財現況調査会
- ・ 佐竹昭広ほか校注 1992『新日本古典文学大系 43』岩波書店
- ・ 尋常高等有馬小学校『有馬村郷土誌』(海老名市教育センター編 1995『教育資料 第 4 集』海老名市教育委員会 所収)
- ・ 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課編 1962『茅ヶ

崎市文化財資料集 第 1 集』茅ヶ崎市教育委員会社会教育課

- ・ 茅ヶ崎市教育委員会社会教育課編 1966『茅ヶ崎市文化財資料集 第 4 集』茅ヶ崎市教育委員会社会教育課
- ・ 萩園郷土史勉強会編 1993『萩園のうつりかわり』萩園郷土史勉強会
- ・ 平塚市-東川斎桂山筆 不動明王二童子像
http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunbu/page-c_01366.html (2019.2.28 閲覧)
- ・ 平塚市中世近世絵画調査団 1995「平塚市中世近世絵画調査 (二)」『平塚市文化財調査報告書 第 30 集』平塚市教育委員会
- ・ 平塚市中世近世絵画調査団 1998「平塚市中世近世絵画調査 (五)」『平塚市文化財調査報告書 第 33 集』平塚市教育委員会
- ・ 2000『茅ヶ崎地誌集成』茅ヶ崎市

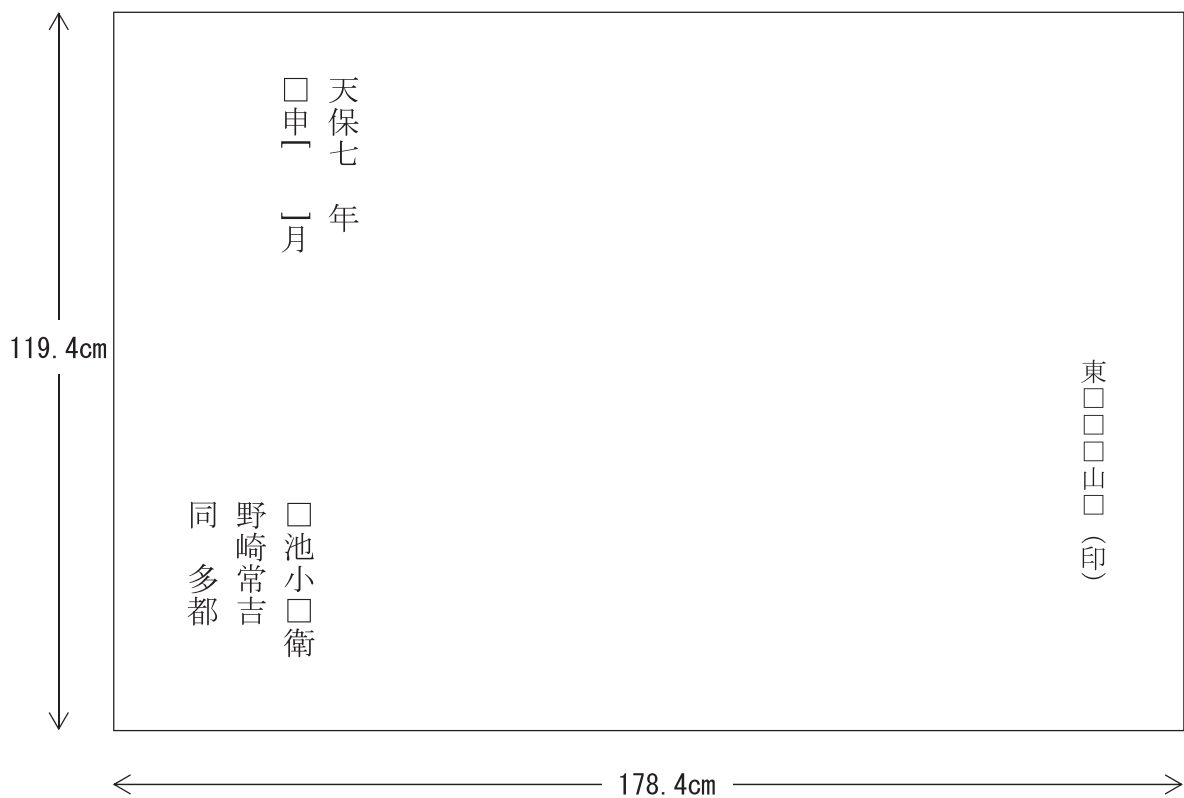
番号	名称	寸法(cm)	年代	墨書等	所有者	備考
1	十六羅漢図(双幅)	各130.0×56.9	江戸時代	〈落款 2幅とも〉 朱文重廓円印「桂山」 朱文方印「東川斎之印」 〈裏書 2幅とも〉 「長久山福田寺什物 十六羅漢 二幅対之内 修繕施主 今井台五郎殿 當山十七世 真山代」	平塚市 福田寺	平塚市指定 重要文化財
2	地獄図(双幅)	各166.8×95.8	江戸時代	〈裏書 2幅とも〉 「長久山福田寺什物 十大王記 地獄極楽之図二幅対之内 修繕施主 當山十七世真山代」	平塚市 福田寺	平塚市指定 重要文化財
3	高士図(2面)	〈内陣側〉 162.5×167.5 〈濡縁側〉 183.5×166.0	天保9～10年 (1838～1839)	〈墨書・落款 内陣側〉 「天保戊戌秋九月 桂山美信寫(朱文方印「桂山」 朱文方印「美信」)」 「桂山美信寫」 〈墨書・落款 濡縁側〉 「己亥春 桂山藤原美信筆(印)」	平塚市 福田寺	本堂外陣の向かって左側にも切り取ってはめられた板戸が1枚ある。これも桂山の作である可能性が高い。
4	龍図天井画		天保11年 (1840)	〈墨書・落款〉 「干時天保十一子十月 東川斎桂山藤原美信謹寫(白文方印「美信画印」 朱文方印「桂山」)」	平塚市 宝珠院	
5	涅槃図	160.0×79.6	江戸時代	〈墨書・落款〉 「東川斎桂山藤原美信慎画(朱文方印「東川斎之印」)」	平塚市 神田寺	平塚市指定 重要文化財
6	十王図	98.3×43.8	江戸時代	〈裏書〉 「中郡神田村大神 観音堂蔵宝 昭和二十四年十二月改表装」	平塚市 神田寺	平塚市指定 重要文化財
7	俳句奉納額(2面)	各42.2×182.2	江戸時代	冒頭の絵の画面右辺中ほどに墨書「桂山」と朱書花押 第2面の中ほどに「東川斎 桂山」という作者名で句が確認される。	平塚市 若宮八幡神社	
8	東川斎桂山筆 不動明王二童子像	110.6×42.8	江戸時代	〈墨書・落款〉 「東川斎 桂山拝書(朱文方印「桂山」「東川斎桂山之印」)」	平塚市 個人	平塚市指定 重要文化財
9	「源三位頼政鶴退治の図」絵馬	120.0×166.0	文政6年 (1823)	〈表面〉 「□政六癸未秋九月 杉久保村金指氏 恵山藤原信有」 〈裏面〉 「文政六癸未秋九月 金指恵山 藤原信□」	海老名市 豊受大神	海老名市指定 重要文化財
10	柿本人麿・玉津嶋太明神・山部赤人図		江戸時代	〈墨書〉「恵山」 〈落款〉「恵山」「信有」	海老名市 高橋正浩家	
11	鷹松図		江戸時代	〈墨書〉「恵山」 〈落款〉「信有之印」「恵山」	海老名市 高橋正浩家	「恵山」の落款はNo.11のものと異なる。
12	獅子・牡丹図、虎・竹図(六曲一双)		江戸時代	〈墨書〉「東川斎桂山信有」 〈落款〉「信有」「信有」「桂山」「東川斎之印」	海老名市 高橋正浩家	2つの「信有」の落款はNo.9のものと同じ。
13	涅槃図	296.0×174.5	江戸時代	〈裏書〉「金刺桂山筆」と書かれているという(大島1978)。	相模原市 宗祐寺	相模原市指定 有形文化財
14	三島大神奉納絵馬「源為朝図」	119.4×178.4	天保7年 (1836)	〈表面〉 「東□□□山□(印)」 「天保七 年 □申□□月」 「□池小□衛 野崎常吉 同 多都」	茅ヶ崎市 三島大神	落款に「信有」の文字があるという(茅ヶ崎市教育委員会社会教育課編1966)。

【表 神奈川県内の桂山作品】

※海老名市編2001、大島1978、神崎1992、相模原市教育委員会教育局生涯学習部博物館編2015、茅ヶ崎市教育委員会社会教育課編1966、平塚市（2019.2.28閲覧）、平塚市中世近世絵画調査団1995・1998 を基に作成した。
 ※出典に作品の寸法が記載されていない場合は空欄とした。



【図3 三島大神奉納絵馬「源為朝図」写真】



【図4 墨書の内容と位置関係】